

持続可能な東広島市を目指して

河内中学校 三年 森本 果穂

私は、今の東広島市は地域によっての格差が激しいことが課題であると思っています。私が住む河内町は、自然豊かで、河内子ども神楽や小田神楽、河内豊作太鼓などの伝統文化が脈々と受け継がれており、地域の方々が優しく、学校に協力してくださるところが魅力です。また、地域全体でも、リバーサイドフェスティバルやマルシェなどの観光イベントを協働して盛り上げていこうという活気があります。しかし、河内小学校・河内中学校の児童・生徒数は減少の一途をたっています。また、西条や八本松、寺家などの中心部の地域とは違い、飲食店や商業施設などが少なく、過疎化が進んでいるという特徴があります。

今年の夏、私は「北広島市親善訪問使節団子ども大使」として、北広島市を訪問しました。北広島市でも、東広島市と同じように地

域によって観光施設や商業施設の数には差があり、児童生徒数が少ない学校もあれば、四〇〇人以上も児童がいる小学校もあり、とてもよく似ていると思いました。

この、「町の中心部に人口が集中する」という状況は日本全国で見られる現象なのではないかと思えます。

しかし、北広島市では「気候」や「自然環境」を活かした町づくりが行われており、美味しい食べ物や景色、地域の特産品などが充実していて、「都道府県魅力度ランキング」で連続して一位を獲得する北海道ならではの町づくりが行われているなと思いました。

このことを踏まえて未来の東広島市を考えてみます。調べていく中で、東広島市は人口が増加している市として注目を集めていると知りました。私が考えるこれからの未来の東広島市は、今よりも発展していて地域ごとの差が少し縮まっていると思います。最近は、西条のゆめモールなどの新しい商業施設が増

えたり、飲食店が多く連なったりしており、前よりも施設が充実してきています。私の知り合いである、広島市に住んでいる方の話を聞くと、「広島市と比べてみても、西条の飲食店が連なっていたり、大きな施設がたくさん一か所にあったりすることは、子育てする家族には住みやすくて、とても凄いいこと」だと言われました。実際に住んでいて慣れているとなかなか気づかない視点だけれど、改めて考えてみると広島市にも西条のように多くの店が集結している場所があり、これは広島市に負けない東広島市の魅力の一つだと思いました。子育てしやすい町づくりという考え方は、東広島市の町づくりの成功例ではないかと思えます。今後も北広島市のように「東広島市」の「気候」や「自然環境」を活かした美味しい食べ物や景色、地域の特産品などを充実させながら、子育てのしやすい町づくりが進んでいくといいなと思っています。

今年の夏に私が参加した、「北広島市親善

訪問使節団子ども大使」の活動も継承してい
く事で、北広島市と東広島市、両市ともに大
きな刺激となり今まで以上によりよい東広島
市になっていくと思いました。

また、東広島市は大学・高校・中学校・小
学校・幼稚園と全ての教育機関が揃っていま
す。加えて、広島空港とも隣接しており、外
国からの方々も訪れやすい立地だと思ってい
ます。この恵まれた条件を活かして、過疎化
が進む郊外の地域にとっても「持続可能な東
広島市」を目指して、住んでいる住民を大切
にした町づくりを進めてほしいと思っていま
す。